

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170502199		
法人名	北海ケアサービス株式会社		
事業所名	グループホーム北海ハウス		
所在地	札幌市白石区北郷7条3丁目8番12号		
自己評価作成日	平成23年11月1日	評価結果市町村受理日	平成24年3月1日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigochoo-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170502199&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3番地北1条ビル3階
訪問調査日	平成23年12月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

運営理念である「笑顔で明るくやさしく」をモットーに利用者様と一緒に喜怒哀楽を共にしています。利用者様の残存能力を發揮していただけるよう、一人ひとりの力に合わせた役割りや楽しみ事をみつけ、調理や片付け、掃除、洗濯、ゲームをしたり、散歩や買い物に行ったりと常に利用者様と職員が助け合って生活をしています。また、家庭的な雰囲気大切に、四季の飾りつけをし、旬の食材を使ったメニュー作りを心掛けています。今年度は火災予防にも力を入れ、2ヵ月に1回の避難訓練を行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームを目的として建築された鉄筋コンクリート造りの堅牢な3階建ての建物は、バリアフリー構造に加え、気候の良い時期には、エレベーターで上がる屋上階で、外気浴を楽しんだり、ゆったりとした食堂兼リビングで、日中をのんびり過ごすなど、利用者の住みやすさを十分配慮したホームです。開設後8年を経たホームは、地域における理解度と協力度が深まり、毎月訪れる保育園児の慰問や子供御輿の立ち寄り場所となり、近隣住民の方々による差し入れなど、地域密着型本来の交流がされています。職員は、ホーム理念を毎朝唱和しながら確認し、理念に基づき実践に努めており、家族は、職員の気配りと親切さや、気軽に話し合いができることに満足し、感謝しています。ホームは、利用者の外出支援にも力を注ぎ、日常的な散歩や買い物以外に、車両を利用して動物園や公園、開拓の村などを訪れたり、ショッピングセンターで食事を取るなど、利用者がホームに閉じこもらない暮らしを支援しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検しううえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送りで唱和している。玄関や居間、ロッカー室に掲示している。	ホーム独自の理念を作り、建物内部への掲示と毎朝の申し送り時に唱和し、全職員の共有とされています。職員は理念の実践に努め、利用者への丁寧で優しいケアに反映されています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	月1回、近所の保育園児の訪問があり交流を図っている。また、一部ではあるが近所の方が話し相手に来て下さる。	町内会に加入し、祭りの手伝いなど、町内会行事に協力しています。さらに、毎月訪問して頂く、保育園児や子供御輿の立ち寄り、近隣住民の方々による野菜提供と話し相手など、地域の一員としての交流があります。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	人材育成として、ホームヘルパーの実習生の受け入れをしているが、地域の方へは、十分に活かされていない。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヵ月に1回、定期的で開催し、利用者の様子や活動報告、ユニット毎の取り組みについて報告し、意見交換やアドバイスを頂いている。	運営推進会議は、多数の家族や町内関係者の参加を頂き、定期的で開催しています。会議では災害時の協力要請や、運営に関する意見交換を行いながら、利用者へのサービスに活かすよう努めています。	会議議事録の家族への送付は、参加者など一部のみにとどまっていますが、会議の意義、理解と、多数の参加を頂くために、全家族への議事録送付の取り組みを期待します。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	札幌市の開催する管理者連絡会議に出席している。札幌市の担当者とは、運営の相談や連絡をしている。	ホーム長は、区及び市の管理者会議に参加し、行政関係者との接触はあります。さらに、外部評価や各種書類提出のため、直接行政担当者を訪れ、相談や情報交換を行うなど、行政との協力関係が築かれています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	高齢者虐待防止法や身体拘束の勉強会を事業所内でを行い、外部の研修会にも参加している。	身体拘束のないケア関連の外部研修会に、複数の職員が交替で参加し、資料を整理して内部の勉強会を実施しています。玄関は特殊な構造のため、家族にも説明しており、防寒対策のため冬期間のみ施錠していますが、内部からは容易に開けられ、利用者の外出には、職員が即座に対応するようにしています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内で勉強会を行い、外部の研修にも参加している。事例検討もを行い、適切なケアを提供できるよう努めている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部の研修会へ参加しているが、十分な理解はできていない。繰り返し、研修へ参加する必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に事業所の対応可能な範囲や医療連携体制、リスク、退去について説明をし、同意いただいてから申込みをいただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時には、日常生活の様子や変化を伝え、意見を言えるよう配慮している。また、ケアプランの見直しの際は、必ず意向や要望を確認している。	家族の来訪時や毎月発行のホーム便りで、利用者の様子を伝え、意見や要望も話し合っています。さらに、ケアプラン見直し時にも、出来るだけ家族に来て頂きながら意見等を聞き、フロア会議などを通して、運営に反映させるようにしています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のユニット会議、年2回の職員面談を行い、職員の意見を聞く機会を設けている。	ホーム長やユニットリーダーは、日常業務やフロア会議を通して、職員からの要望等を聞いていますが、運営法人本部からの責任者を交えて、年2回の個人面談もを行い、ホーム運営や利用者へのサービスに活かすようにしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の職員面談で、職員個々の立てた、業務目標についてのアドバイスや評価をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりの力量に合わせた外部研修を受講できるように、年間計画を立て、毎月のユニット会議で研修報告をしている。報告書は職員全員が閲覧できるようにしている。又、事業所内での勉強会やユニット毎の勉強会も定期的に行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	「民間事業者の質を高める会」有限責任中間法人全国介護事業者協議会に入会しており、交流会、勉強会に参加し、ネットワーク作りや質の向上を目指している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に必ず本人、家族との面談を行い、不安や要望を聞く機会を設けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に必ず本人、家族との面談を行い、不安や要望を聞く機会を設けている。又、ご家族の来訪時や電話で様子を伝え、要望を聞いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントを十分に行い、何を優先すべきかを相談し、必要な支援を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者一人ひとりに、できる事をお手伝いして頂き、助け合いながら生活している。又、不穏になる利用者には、寄り添い、傾聴している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の来訪時や状況に変化がある時は電話で状況を報告し、要望や意見を聞いている。又、毎月広報誌を送り、様子を伝えている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話の使用や家族との外出は自由にしてもらっている。職員の同行で家族の家に行く方もいる。	職員は、利用者の知人への電話や手紙、馴染みの場所への外出などを支援しています。知人が来訪した時は、気軽に滞在できるよう歓迎し、希望があれば食事も提供しながら、利用者との関係継続に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関わりが持てるよう、座席の位置等に配慮しながら、利用者同士のトラブルを防ぐため、職員が調整役になっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて情報提供をしている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、利用者の言葉や表情等を観察し、意向の把握をしている。	利用者とのコミュニケーションを大事にし、日常の様子や表情などから、思いや意向を把握しています。把握困難な時は、過去において受け入れた事項なども参考にしながら、利用者本位に支援しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に家族から聞き取りをし、日々の暮らしの中でも情報収集を続けている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送りで確認し、記録している。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回の会議でカンファレンスを行い、随時見直しを行っている。	利用者のケアプラン見直し時には、出来るだけ家族にも来て頂き、医療機関とも相談しながら、サービス担当者会議で原案をまとめ、これをフロア会議で、職員全員が検討して作成し、全員の共有としています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のファイルを用意し、毎日の様子や食事、水分量、排泄等を記録し、本人の言ったエピソードも記録している。又、変更事項や重要な事は連絡ノートを使用している。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	買い物や急な受診等、本人や家族の状況に応じて柔軟に対応している。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問理美容や市事業のおむつサービス、SOSネットワークの活用など、必要な情報を伝え利用している。また、運営推進会議で周辺情報やケアに関する意見交換を行っている。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医療機関の他、本人、家族の希望の医療機関の受診をしている。必要に応じて受診の付き添いもしている。	協力医療機関による定期訪問診療もありますが、かかりつけ医の受診も自由で、職員が付き添いの場合もあります。非常勤の看護職員もいるため、職員は相談しながら、医療機関との連携を図っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置し、日々の状態などを報告、相談し、対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、ケアに関する情報を提供し、退院時は、看護添書を確認している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際に事業所に対処可能な範囲を説明している。状況に変化があった場合は、すぐに連絡し、必要に応じて話し合いをしている。	ホームとして、利用者の看取りまでは行っていませんが、重度化についての指針を作成し、入居前に説明しています。利用者に状態変化が発生した時は、医療機関と相談しながら、家族へ状況を説明し、入院など必要な対応を行っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応についてマニュアルを整備し、勉強会を開催している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の立会いで、年2回避難訓練を行い、指導を受けている。その他、2ヵ月に1回、ユニット毎の避難訓練を行っている。	消防署の協力を頂きながら、年2回の避難訓練を実施し、さらに、ユニット単位で、2ヵ月毎に訓練を行っています。災害時に備えて、飲食品等の備蓄品も用意しています。	運営推進会議で避難訓練への協力要請を行い、昨年は住民の方々の参加がありましたが、今年度は呼びかけていません。災害時における周辺住民の方々の協力は、極めて大事ですので、今後も、継続的に周辺住民の方々への協力要請と参加の取り組みを期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに合った言葉かけや対応を話し合い、心掛けてはいるが、十分ではない。	利用者一人ひとりへの言葉かけや、ケアサービス実施の際に、プライバシーや誇りを損ねないよう配慮しています。個人情報に関わる記録や、資料等も適切に管理されています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表現したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できるよう、選択肢を提案している。難聴の方には、ホワイトボードで筆談している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、一人ひとりの体調や様子を観察しながら、柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	鏡を見ながらの整髪介助や本人のこだわりのスタイルを維持できる配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日には本人の好みのメニューを取り入れている。普段の献立には、旬の物を取り入れるよう心掛けている。又、調理の下ごしらえや後片付けを利用者と一緒に行っている。	献立は、職員が利用者の好みと栄養バランスを考え、30品目の食品を含めて作成し、一部の利用者は、調理や準備等を手伝っています。また、毎月末には寿司の出前を利用したり、外食に出かけるなど、バラエティに富んだ食事を楽しんでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日30品目を摂れるよう、バランスのとれた献立作りを心掛けている。又、食事、水分摂取量をチェックし、必要量を摂取できるよう、好みの物を用意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアが難しい方は、食後の水分摂取やうがいをしていただき、誤嚥予防に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックをし、定時、訴え時に誘導を行っている。トイレ誘導時は、プライドを傷つけないよう、言葉かけをしている。	利用者一人ひとりの排泄状況をチェックし、表情などを見ながら、誇りを傷つけないよう、トイレ誘導しています。利用者によっては、トイレ外排泄や、おむつの使用減少も見られ、職員の熱心な支援効果が表れています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の体操の他、個別の運動や散歩等、体を動かす機会を大切にしている。牛乳やヨーグルトを摂れる配慮している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	可能な限り、利用者の希望に添い入浴して頂いている。入浴を拒む方には、言葉かけを工夫している。	利用者の入浴は、2～3日に1回を原則として、日中の時間帯に実施しています。夕食後の入浴希望者がいる2階ユニットでは、遅番の勤務時間帯に、希望者の入浴を行う場合もあります。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の生活リズムを崩さず、一人ひとりの体調を見ながら休息をとっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局からの薬の説明書をファイルし、いつでも見られるようにしている。服薬は一人ひとりに合わせて介助し確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器洗いや洗濯物たたみ等、一人ひとりに合わせた役割りをみつけ、職員と一緒にしている。散歩や外出レク、午後からの体操やレクリエーション等を一緒に楽しんでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	冬季以外は毎日、散歩に出かけたり、買い物に出かけている。近所の家族に家に遊びに行く方もいます。家族の協力を得て、外出の機会を作っている。	利用者は、ホーム周辺や公園を散歩し、買い物にも出かけ、気候の良い時期には、屋上テラスで外気浴を楽しんでいます。車両で、ドライブを兼ねての外出機会も多く、動物園、百合が原公園、開拓の村などに出かけ、冬期間は、水族館やショッピングセンターなどへ出かけています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本は事務所で管理しているが、家族と相談して少額のお金を所持している方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自由に使用してもらっている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、居間には季節感を取り入れた飾りつけをしている。利用者の混乱がみられた時には、その都度対応し取り除いている。	グループホーム用に3階建ての鉄筋コンクリートで頑丈に造られた建物は、利用者や家族に安心感を与え、ゆったりした居間兼食堂や、エレベーターで行ける屋上テラスなど、暮らしやすさに配慮されています。居間には、殺菌効果のある加湿器も設置されるなど、ホーム内の衛生面や清掃にも注意し、季節の飾りや写真、鉢植えなどで、居心地の良い空間が提供されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	独りになれるソファを置いたり、気の合った利用者同士で過ごせるよう、家具の配置に気を配っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使用していたタンスや仏壇等、使い慣れた物を置き、居心地の良い居室づくりを心掛けている。	各居室とも広い窓で明るく、出窓の部分には、鉢植えや飾りなどを置き、和みのある雰囲気になっています。利用者は、馴染みの家具や仏壇、テレビなどを持ち込んで、ゆったりと安心して過ごしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの目印をつけたり、日めくりカレンダーを作ったりと利用者が混乱しないよう工夫している。新たな混乱や失敗が生じた時には、その都度話し合い、対応している。		